

平成 25 年度 大学職員情報化研究講習会 応用コース  
第 1 分科会 第 2 グループ 討議経過と討議内容

1. 討議経過

- ・自大学での学修ポートフォリオ、LMS の導入状況について各自紹介
- ・学修ポートフォリオ、LMS 導入にむけて大切なこと
- ・学修ポートフォリオ、LMS を導入した際の活用法
- ・学修ポートフォリオ、LMS 導入における課題と展望

2. 討議内容

- ・学修ポートフォリオ、LMS 導入にむけて大切なこと  
「どのように使いたいか」ということを事前に熟考し、目的を明確にしておく必要がある。  
目的が不明確なまま単なる情報の集積媒体として導入すると、「使ってもらえない」「いざというときに必要なことができない」「指標もあいまい」なままになってしまう。
- ・学修ポートフォリオ、LMS を導入した際の活用法
  - “卒業後” を繋げる  
卒業生がどのように社会で活用しているかを在学生に見せることで、キャリア指導や教職指導に繋がられる。  
例：キャビンアテンダント志望の在学生在が、キャビンアテンダントになった先輩の履修科目を参考にすることができる。
  - “出席情報” を蓄積する  
授業に出ているかどうかという基本的な情報を蓄積できれば、学生面談を事前に打つこと等ができ、“リタイヤ(退学)止め”にも繋がられる。
  - “窓口での相談事項” を蓄積する
  - 蓄積データを様々な分析に役立てる
- ・学修ポートフォリオ、LMS 導入における課題と展望
  - 導入しても使ってもらえるのか  
現在は、導入に向けての検討は職員のみで行い、教員には後から承認を得るだけとなっている場合が多い。開発段階から、職員・教員が協同して検討すれば、より良いものができるし、完成後も活用してもらえるようになるのではないか。
  - 部課同士で連携が取れていない  
現在は、様々な部署で別々のシステムを使用している場合が多い。費用はかかるが、システムを一本化したり、一本にできなくてもそれぞれで連携を持たせるように工夫していく必要がある。

以上